

## 第6回日本薬学教育学会大会 ワークショップ3 概要

ワークショップ日時	8月22日（日） 14:30-16:30
タイトル	論文の公開査読シミュレーション—質の高い教育研究論文の執筆を実践する
オーガナイザー	安原智久（和歌山県立医科大学薬学部 教授）
概要	<p>質の高い薬学教育研究を行い、その結果を論文にしたい。いや、しなければならない。これは薬学教育領域で活動する誰もが考えることである。しかし、現実にはなかなか上手くいかない。なぜなら、我々は「模倣できる先人のいない環境」で薬学教育研究に取り組んでいるからである。これまでほぼすべての研究領域で、初学者の隣には「お手本」となる先人がいた。その先人が活躍し、褒められるのを見て、あるいは、失敗し、怒られるのを見て、研究手法を学んできた。新しい領域である「薬学教育」領域の研究者は、この模倣から始められないことが研究の質の向上を停滞させている一因ではなかろうか。しかしながら、薬学教育研究の歴史はまだ浅く、規模も小さい。すぐ隣に「お手本」となる先人が必ずしもいるわけではない。本学会会員の中にも孤軍奮闘、研究室・センター単位で手探りの挑戦を続けておられる方も多いのではないだろうか。</p> <p>医学教育研究においては、メンタリングが研究者の育成に重要な役割を果たすと考えられている。メンタリングは、研究に関する知識と経験を有する研究者（メンター）が、経験の浅い研究者（メンティー）に対して研究の指導および支援を個別に行う教育システムと定義される。メンタリングの役割には、研究の指導だけでなく、研究者としてのキャリア形成の支援も含まれるとされる。そのため、メンターを持たない研究者はキャリアパスに対する満足度が低いことが報告されている。医学教育の領域では、メンターという概念と重要性が認識されており、医学教育学会によるメンタリングプログラムが提供されている。</p> <p>本ワークショップでは、オンライン開催となったことを踏まえて、薬学教育研究に関する「穏やかな」グループメンタリングを実施する。薬学教育研究のデザインや実際のデータのとり方、倫理上の問題点、論文執筆・投稿、査読者への対応で困ったことなど、日ごろ相談しても先人がおらず、問題解決のヒントが得られないことについて距離を超えて「雑談」できる場を提供する。既に一定の薬学教育研究を実践できている研究者から、これから研究デザインを始める研究者へ。何報も教育研究論文を書いた研究者から、初めて論文を書こうとしている研究者へ。普段から査読をたくさんしている研究者から、査読者への対応に困っている研究者へ。知識と経験を伝えることで、薬学教育研究に取り組む個人のレベルが上がり、領域全体のレベルが上がるきっかけになればと思います。</p> <p>具体的な困りごと、悩み、相談がある方。身近ではない研究者と話してみたい方。悩みはないけど、困っている人がいれば自分の経験が役に立つんじゃないかという方。単に教育研究について雑談したい方。そんな方は、本ワークショップにぜひご参加ください。あらかじめ、これまでの研究経験や相談内容をお伺いしたうえで、メンタリンググループを編成いたします。</p>